

令和7年度 学校評価 目標・改善策(自己評価)

《資料1》

No.	評価項目	R7目標	R7改善策	評価	総合評価 ()は昨年度
1	教科教育	<p>◎生徒の実態とこれまでの研究の成果, 中学校の教科教育で求められているものなどを踏まえ, 新たな研究テーマを設定し, 授業実践を通して, そのテーマについて考えを深める。</p> <p>○中等教育研究会, スキルアップ講座プラスへの参加者数を増やす。とくに, 県内の教育関係者の参加を増やす。</p>	<p>【新しい研究テーマの設定】(個人としてどうだったか)</p> <p>■全職員で, 生徒の実態と前年度までの研究の成果・課題について整理・検討し, 新しい研究テーマを設定する。</p>	3.4	3.4 (3.1)
			<p>■全職員が, 新しい研究テーマについて授業実践を行う</p>	3.3	
			<p>【研究成果の発信】(学校としてどうだったか)</p> <p>■研究推進員の中で担当を決め, 1か月に1回以上, 本校ホームページに本校の研究の様子や成果を伝える記事を掲載する。</p>	3.3	
			<p>■大学と連携し, 中等教育研究会とスキルアップ講座プラスの開催案内をSNSで発信する。</p>	3.4	
2	道徳教育	<p>◎年間指導計画の見直しを随時行い, 計画的に取り組めるようにする。</p> <p>○道徳の評価の方法を再度検討する。</p>	<p>【年間指導計画】(学校としてどうだったか)</p> <p>■年間指導計画を基に, すべての内容項目が網羅できるよう, 道徳部会を中心に通年で計画的に取り組んでいく。</p>	3.5	3.5 (3.1)
			<p>【道徳の評価】(学校としてどうだったか)</p> <p>■他校の実践を参考にしながら, 夏休み中と冬休み後に道徳部会が評価の方法や文例を提案する。</p>	3.4	
3	SELF	<p>◎ICT機器を効果的に活用し, 深い学びにつながる授業を実践していく。</p> <p>○SELFを核とした教科横断的な指導計画をもとに, 授業を実践していく。</p> <p>○SELF担当のみではなく, 学年職員はもちろん司書教諭も関わる中で, SELFの毎時間の授業を創る。</p>	<p>【ICT機器の効果的な活用】(学校としてどうだったか)</p> <p>■振り返りの場面や課題設定・情報収集等の場面でGoogle Workspaceやロイノートを適宜活用し, その内容・様子を学年職員全員で共有して, 深い学びを目指す。</p>	3.4	3.2 (3.4)
			<p>【教科横断的な授業の実践】(学校としてどうだったか)</p> <p>■教科横断的視点で, 関連し合う内容を可視化した単元配列表をもとに, 全職員が授業の実践を行うことを目指す。</p>	2.9	
			<p>【職員が一丸となって創るSELF授業】(学校としてどうだったか)</p> <p>■学年職員がTT体制で各クラスの授業に参加したり, 授業前後における司書教諭との綿密な打ち合わせを行ったりすることで, 深い学びにつながる授業を目指す。</p>	3.4	
4	キャリア教育・特別活動	<p>◎職員会議等を通じて「やまなしキャリア・パスポート」についての共通理解を図る。</p> <p>○本校のキャリア教育や指導法について, 通知等を活用し保護者にも共通理解を図る。</p>	<p>【組織的・系統的なキャリア教育】(学校としてどうだったか)</p> <p>■年間指導計画を確実に実施し, キャリア教育講演会や若桐講座の実施を継続していく。</p>	3.3	3.1 (3.2)
			<p>■キャリアパスポート発行時には, 職員へ実施目的などを含めて周知し, 共通理解を図る。また, 家庭にも年度初め及び年度末に通知し, 実施目的や内容等について共通理解を図る。</p>	3.2	
			<p>■年度の途中で作成するキャリア・パスポートに保護者のコメントをもらったり, 学校HPなどで発信したりすることを通して, 保護者に本校のキャリア教育の成果などを知ってもらう機会を作る。</p>	2.9	
5	生徒指導	<p>◎QU, 生活実態把握アンケートを定期的実施し, 結果を分析し, 活用するとともに, 全職員で情報を共有しながら, 指導を適切に行う。</p> <p>○交通指導担当と連携し, 公共交通機関のマナー, 登下校のマナーなどを徹底し, 地域に愛される附中生を目指す。</p> <p>○情報担当と連携し, ネットトラブルの防止に向けた情報モラルに関する集会・講演会を実施する。</p>	<p>【QU調査・生活実態把握アンケート】(学校としてどうだったか)</p> <p>■QUは6月・11月に実施する。生活実態把握アンケートは, 6月・11月・2月に実施する。各学年調査結果をもとに速やかに対応するとともに, 長期休業前に生徒へ解決や改善がされたかどうか確認を行い, いじめ対策委員会で情報の共有と指導の方向性を共有できるようにする。</p>	3.7	3.2 (3.4)
			<p>■7月, 12月の職員会議をいじめ対策委員会と位置づけ, 結果及び指導の方向性を全職員で検討・共有するとともに, 早期対応に努める。</p>	3.6	
			<p>【登下校マナーの徹底】(学校としてどうだったか)</p> <p>■電車通学・バス通学・自転車通学・歩行通学それぞれのマナーに関する指導を, 学年や学級で行い, 生徒の意識改善に努める。職員会議内で, 登下校時のマナーについて気になる点を共有し, 毎月指導の改善を図る。交通指導担当と連携し, 必要に応じて集会を開いて一斉指導をしたり, 交通委員の取り組みを実施したりする。</p>	2.9	
			<p>■下校指導の計画に基づき, 全職員で下校指導を行う。また, 担当職員及び担当学年の職員は生徒が下校するまで, 責任をもって指導を行うことを徹底する。</p>	2.9	
			<p>【情報モラル集会】(学校としてどうだったか)</p> <p>■携帯電話, スマートフォンの使用やSNSを含めたネットの利用などについて, 情報担当と連携し, 定期的な集会や講演会を行い, 生徒の情報モラルの向上をはかる。</p>	3.1	

6	安全管理	防災・防犯	◎デジタル化した安全点検表の結果の共有を全職員ができるようにする。	【安全点検表の共有】(学校としてどうだったか) ■安全点検表の結果を入力結果が全職員がわかるようにし、校地内の危険箇所を把握できるようにする。	3.1	3.2 (3.2)
			○あらゆる場所からの避難経路や危険箇所の確認ができる実生活に即した避難訓練を行う。	【実際に即した避難訓練の実施】(学校としてどうだったか) ■火災や地震、アラートに対して生徒が危機感を持って冷静に行動できるような避難訓練の方法や時期を考えていく。通学途中で災害が起きた場合の指導もしていく。	3.2	
7	安全管理	交通指導	◎生徒の交通ルールやマナーに対する規範意識を高める。 ○交通委員会の生徒主体の活動で、課題を解決していくことを目指す。 ○外部人材を活用する。	【情報発信】(学校としてどうだったか) ■新年度始まってすぐ(4月中)に、各学年の現状を踏まえた交通安全指導を警察の交通安全担当の方にしていただく。その後に交通安全主任と交通安全担当を中心に継続的に指導を行う。	3.3	3.2 (3.2)
				【交通委員会の取り組み】(学校としてどうだったか) ■ヘルメット点検の活動を毎週や自転車点検時に設定したり、登下校についての呼びかけを継続的に行わせることで生徒の主体的な活動を促す。	3.1	
				■交通委員長がヘルメット点検の結果報告を昼の放送で行う。	2.9	
				■新年度始まってすぐ(4月中)に、自転車協会の方に自転車点検をしていただく。	3.5	
8	特別支援教育	◎より充実した支援体制を構築するために、特別支援教育に関して大学との連携を積極的に行う。 ○必要に応じてケース会議を行い、関係職員で連携した支援を目指す。	【支援体制の徹底】(学校としてどうだったか) ■SCなど、専門的な知識のある先生と連携して助言をいただいたり、附属中の実態に合った内容の講義を実施したりする。	3.4	3.4 (3.3)	
			【ケース会議】(学校としてどうだったか) ■ケース会議を実施する際には、専門の先生に入ってもらい、適切な支援について情報交換ができるようにする。	3.4		
			■ケース会議等で確認された対応の仕方などは、生徒指導部会を通じて各職員に周知し、職員会議でも確認することで全職員で共通理解のもと、対応できるようにする。	3.3		
9	教育相談	◎SCや学年、学級担任、養護教諭と連絡を取って、情報の共有を図り、校内が連携した相談体制を目指す。 ○教育相談の充実に努め、SCと教員間のコンサルテーションの場を設定する。	【情報の共有】(学校としてどうだったか) ■生徒指導部会の中で各学年の生徒の情報を共有し、支援の仕方やSCの利用を検討する。	3.4	3.3 (3.4)	
			【SCとの連携】(学校としてどうだったか) ■相談室の空き時間を利用して、SCと学級担任等とのコンサルテーションができるように、相談の予約状況を職員で共有していく。	3.2		
10	組織運営	○全職員が効率よく情報を共有化し、報告・連絡・相談を徹底する。 ◎超過勤務時間の減少と職員の負担軽減を図るための組織運営につとめる。	【情報の共有】(学校としてどうだったか) ■学校運営や学年運営に必要な情報の共有【報告、連絡、相談(ほうれんそう)】のためにTeamsや一斉メールの活用方法の模索と連絡系統の確立。	3.4	3.3 (3.3)	
			【効果的な組織運営】(学校としてどうだったか) ■実情に合わせた分掌への複数配置、分担を細分化した、明確化を図った分掌内容を担当者に割り振る。	3.2		
			■行事の精選・縮小について、実施時期や内容・取組方法等を含め、軽減できることを段階的(学年・分掌→企画・運営委員会→職員会議)に模索し、次年度年間行事予定の作成時に合わせて検討する。	3.3		
11	学校評価	○より精度の高い自己評価となるよう、評価の対象の明確化や、評価項目の重点化に努める。	【評価方法の見直し】 ■評価の際、「自分としてどうであったか」、「学校全体としてどうであったか」という2つの視点から自己評価を行い、評価の精度を更に高める。 ■改善策1つ1つについてどうであったかを問い、取り組めたかどうかを可視化できる評価方法とする。		項目には入れておくが、自己評価をする対象にはしない。	
12	情報化推進	◎ICT端末の効果的な利活用 ○デジタルシティズンシップ教育の推進	【ICT活用】(学校としてどうだったか) ■本校に導入されているツール(ロイロノート・スクール、Google workspace for Education、Canva、eライブラリなど)のシステムを活用した教育実践(学校運営や授業以外の生徒への学習指導・生活指導等)を通年で行う	3.4	3.2 (3.5)	
			【情報モラル教育の充実】(学校としてどうだったか) ■生徒指導や外部機関と連携し、情報モラル教育の推進を行う。	3.1		
			■情報担当が中心となり、ネットトラブルに関する話をする計画を立てる。	3.0		